

第1章 序

1.1 研究の背景と課題

近年、人々の環境問題への関心の高まりに伴い、自然環境保全や地域の自然環境の豊かさが重視されている。環境計画や都市計画学の分野では、エコシティといった快適居住環境やエコロジカルなまちづくりが強調されている。本研究は、こうした潮流の中で建築・都市と環境との調和を図るための新たな手がかりを風水思想から求められるのではないかと考えた。

西洋では、geomancy（土占い）や topomancy（土地占い）という言葉、及び、geography（地理学）や geomorphology（地形学）という学問がある。しかし、「風水」（Feng-Shui）はそれらの言葉とニュアンスが違う。また、それらの学問と知識体系も異なっている。つまり、「風水」は、もともと、中国人の哲学思想の根本的観念＜天地人一体の宇宙観＞から発達したもので、都市造営や居住空間の構築にあたって、自然環境や地理景観に対する直観分析と象徴的解釈の理論と方法の知識体系である。換言すれば、風水は古代中国の都市計画や環境計画の思想であり、環境を総合的且つ直観的に理解できる認識法である。

古くから伝承されている風水は、主に理想的都邑建設の立地点の選定と住居の空間構成や道路・家屋の配置の決定に影響を与えている。

このような風水の知見を現代の都市計画や建築に生かせないか。もし、生かせるとしたら、どのように取り組んでいけばよいのであろうか。または如何に位置づけすればよいのであろうか。これらは、都市計画や建築の方法が転換を迫られている今日において重要な研究課題である。

しかしながら、長い歴史の変遷を経て伝わっている風水には、古人の合理的な経験によるものと、俗信・迷信と結びついて庶民を強く支配しているものとが混在し、これが風水の概念や風水の作法を一段と複雑にしているという面もある。本研究は、この両者の関係性を解き明すのではなく、あくまでも都市計画における風水思想の基礎的研究として、科学的調査研究を通じて風水の本質を学術的に解明しながら、風水理論が居住環境選定の経験法則として一般性を持ち、地理的条件の異なる地域に対しても一定の有効性を持ち得るということを明らかにしようとしている。